

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2007年12月)

発表日2008年2月13日(水)

～原油価格高騰を背景に経常収支黒字は1年ぶりに縮小～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 柵山 順子

TEL : 03-5221-4548

		原数値 経常収支				季調値 経常収支			
		貿易・サービス収支		所得収支		貿易・サービス収支		所得収支	
		貿易収支		所得収支		貿易収支		所得収支	
		前年比	前年比	前年比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比
06	1-3月期	18.5	▲ 13.5	▲ 28.2	42.0	▲ 4.9	▲ 10.5	▲ 9.4	4.1
	4-6月期	▲ 3.0	▲ 24.5	▲ 17.4	15.8	▲ 7.2	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 2.2
	7-9月期	11.4	6.0	▲ 0.1	17.6	4.6	5.3	1.0	3.6
	10-12月期	6.4	13.6	12.1	6.3	19.9	56.2	38.0	1.5
07	1-3月期	23.6	45.7	51.9	12.1	▲ 1.6	▲ 2.4	2.6	1.0
	4-6月期	41.0	50.6	35.9	32.2	16.0	▲ 3.7	▲ 2.1	25.7
	7-9月期	29.6	59.2	43.9	15.6	▲ 4.6	19.7	12.2	▲ 15.1
	10-12月期	12.9	7.3	3.1	17.3	5.8	3.0	▲ 3.0	6.3
06	12月	▲ 4.7	14.3	15.1	▲ 9.5	▲ 2.4	▲ 23.5	▲ 21.4	19.6
07	1月	43.3	-	-	16.3	▲ 7.4	16.1	21.8	▲ 21.6
	2月	4.1	1.2	2.6	7.3	▲ 17.2	▲ 44.6	▲ 39.0	12.2
	3月	35.7	59.1	60.3	13.2	63.3	104.7	71.0	36.5
	4月	48.4	67.2	34.2	41.7	▲ 5.1	▲ 14.7	▲ 7.2	0.6
	5月	30.6	1.5	2.6	36.7	▲ 2.6	▲ 14.0	▲ 12.0	3.2
	6月	48.0	73.9	56.3	▲ 2.6	▲ 7.6	▲ 5.2	▲ 8.8	▲ 8.0
	7月	4.3	▲ 30.7	▲ 19.4	24.6	▲ 14.0	▲ 13.5	▲ 6.7	▲ 11.6
	8月	42.1	316.2	180.1	7.3	24.5	99.3	72.4	▲ 14.8
	9月	42.5	77.1	59.9	16.0	4.3	▲ 22.2	▲ 25.1	36.8
	10月	45.7	113.5	52.3	17.4	12.5	36.0	23.0	▲ 7.4
	11月	2.1	▲ 8.6	▲ 9.7	14.8	▲ 15.6	▲ 18.7	▲ 9.0	▲ 10.1
	12月	▲ 4.7	▲ 22.7	▲ 16.8	19.6	▲ 14.3	▲ 50.1	▲ 40.5	19.2

(出所)財務省「国際収支状況」

○12月の経常黒字額は前年比▲4.7%

12月の経常黒字額は前年比▲4.7%の1兆6,972億円(原数値)と1年ぶりに黒字幅が縮小した。貿易収支についてみると、輸出は主要地域がそろって鈍化した一方、原油価格高騰の影響で輸入が大幅に拡大したため、黒字幅は2ヶ月連続で縮小した。所得収支については対外資産残高の増加を背景に黒字幅の拡大が続いたものの、貿易収支の黒字幅縮小の影響の方が大きかった。

○所得収支黒字拡大も貿易黒字縮小がそれを上回る

貿易収支の黒字額は前年比▲16.8%と、2ヶ月連続で黒字幅が縮小した。輸出は前年比+7.1%と前月(同+9.5%)から小幅鈍化となった。主要地域別(通関ベース)にみると、対米国は前年比▲4.5%(前月同▲6.2%)と減少が続いていることに加え、対EU、対アジアでも伸びが鈍化した。財別にみると、自動車ではアジア、新興国向けを中心に好調に推移し、世界的にIT関連財の在庫調整が終了したことを受けて通信機なども好調に推移している。米国向け輸出の低迷が続く中、EU向けが鈍化したため、輸出は拡大ペースは鈍化しているものの、アジアや新興国向けが下支えとなり増加基調を保っている。一方、輸入は価格高騰の続いている原粗油輸入の拡大を背景に前年比+12.5%(前月同+13.2%)と高い伸びが続いており、輸出の伸びを大きく上回ったため、貿易黒字額は2ヶ月連続で前年を下回った。

サービス収支は、海外からの旅行者増加により「旅行」の赤字幅は縮小したものの、海上輸送など「輸

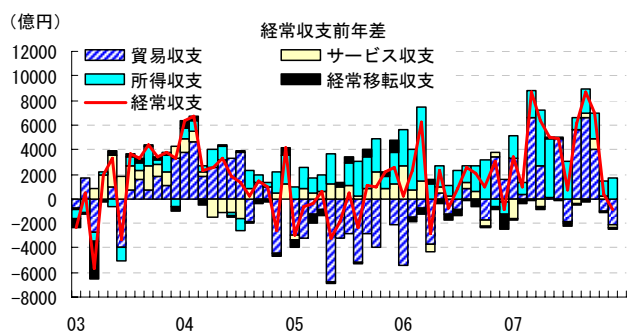
送」の赤字幅が拡大した。また、特許使用料の受取額が減少し「その他サービス」の黒字幅が縮小したため、全体の赤字幅は縮小した。

所得収支の黒字額は前年比+19.6%と拡大が続いた。所得収支については、グローバル化の進展により海外向けの配当支払い増加が続いた。しかし、これまでの海外資産残高の増加を背景に債券利子の受取額は増加が続いていることに加えて、直接投資の再投資収益も拡大したため、総じて見れば所得収支の黒字幅は拡大している。以上のように、12月も所得収支黒字幅は拡大が続いたものの、それ以上に貿易収支黒字が縮小したため、経常収支全体の黒字幅は1年ぶりに減少した。

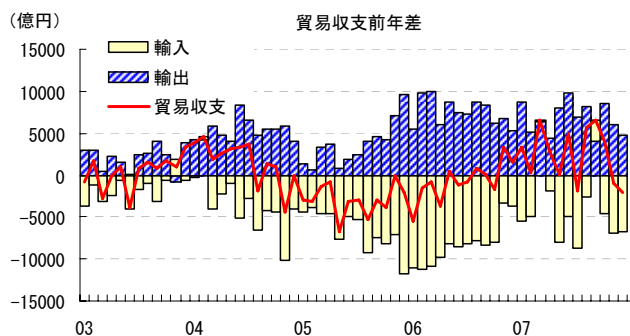
○経常収支は先行きも緩やかな黒字増加基調が続く公算が大きいものの、不透明感が高い

今後についても、原油価格の高止まりを背景に、輸入の伸びが輸出の伸びを上回る状況が続くと考えられ、経常黒字に対して下押し圧力がかかるだろう。もっとも、多額の資産残高を背景に所得収支の緩やかな増加基調が続くと考えられることに加え、原油価格高騰の影響も先行き限界的には剥落していくと見られるため、経常収支の黒字額減少が長期にわたって続くことはないとする。経常収支は緩やかな増加基調を辿ると予想される。

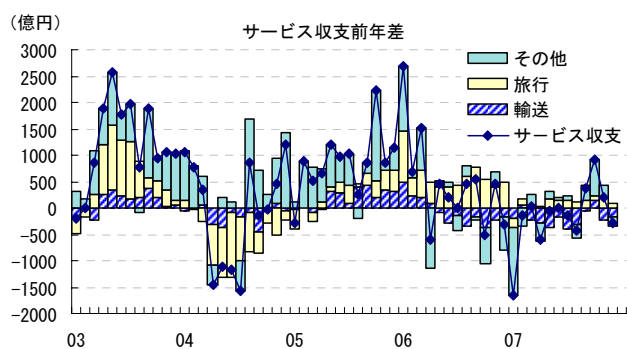
なお、リスク要因としては輸出の動向が挙げられる。インフラを中心とした設備投資や消費といった内需も好調な中国などの新興諸国向けの高い伸びが続く公算が大きく、輸出は緩やかながらも増加基調を維持すると筆者は予測しているが、足元では輸出の先行きについて不透明感が強まっている。米国では、住宅市場の調整が長引く可能性が高まっていることに加えて、ガソリン価格の高騰や雇用の減少、マインドの低下などを背景に消費は陰りが出始めている。現段階では、減税効果や積極的な利下げにより、米国景気は年央以降、緩やかに持ち直すと考えているが、予想以上に低迷するリスクが高まりつつある。米国経済の落ち込みが深刻なものとなった場合には、これまで好調だった新興諸国の景気への悪影響も避けられず、輸出は下振れるだろう。



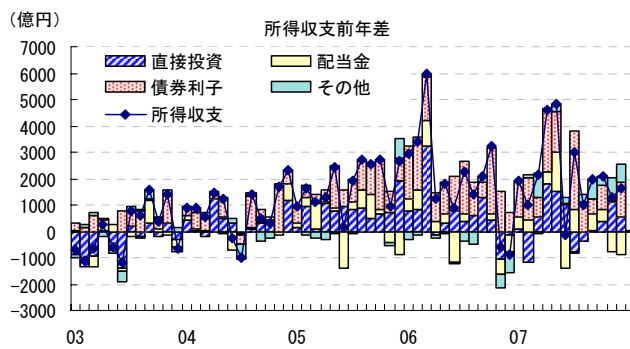
(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」



(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」



(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」



(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」